

レアアース・ダイジェスト

2018年12月29日（第52号）

発行者 桑原一夫 Email : kuwabara-reed@ozzio.jp

レアアース、レアメタルを通して世界が見える～情報とオピニオン

第8回 日米欧 三極クリティカルマテリアル会合

『自動車電動化に向けたクリティカルマテリアルの役割』など 討議

経済産業省は12月6日、第8回の「日米欧 三極クリティカルマテリアル会合」を都内で開催した。会合（米エネルギー省、欧州委員会と共催）には、日米欧のレアアースなどクリティカルマテリアルの政策当局者、技術者、研究者が参加し、クリティカルマテリアルに関する取組み、今後の課題等について、情報交換を行った。4つのセッションのうちのひとつの議題に、『自動車電動化に向けたクリティカルマテリアルの役割について』を取り上げた。

会合は、以下の4つのセッションで行われた。

1. クリティカルリティとサプライチェーン分析
2. 循環経済におけるクリティカルマテリアル
3. クリティカルマテリアルの需要に影響を与える材料開発
4. 自動車の電動化に向けたクリティカルマテリアルの役割について

日米欧三極クリティカルマテリアル会合は、2010年にクリティカルマテリアル（特にレアアース）の価格が高騰し始めたことなどにより、2011年から開始された。会合は、日米欧三極協力の一環として、クリティカルマテリアルの研究開発分野における情報交換を行うことを目的に、年に一度、日米欧持ち回りで開催。今回、日米欧三極協力の重要性が改めて認識された。第9回会合は2019年、欧州で開催される予定。

（出典：2018年12月6日 経済産業省発表資料 / レアアース=希土類）

世界レアアース工業協会（GloREIA）～持続可能なレアアースの供給体制実現に向け積極展開

（3頁に記事）

世界レアアース工業協会 (GloREIA) ～持続可能なレアアースの供給体制実現に向け積極展開

GloREIA (Global Rare Earth Industry Association : 世界レアアース工業協会) は、2018年3月29日にベルギーのブリュッセルでキックオフイベントを開催した。GloREIAは、レアアースの持続可能な供給体制の実現を目指すプロジェクトとして始動した。欧州発のプロジェクトだが、中国、日本、米国をはじめ各国に働きかけ、世界包括的なレアアース産業の新しい協会づくりを意欲的に進めている。

3月のキックオフイベントには、レアアースの供給・需要サイドの企業や、研究に関わる大学など約40の機関が集まり、その後、約20の機関が同協会の contributing partners として名前を連ねている。最近では、フォルクスワーゲン、シーメンスなどの大手企業が新たに加盟することを決めている。日本では、レアアース輸入商社として知られるマテリアル・トレーディング・カンパニーの小滝秀明社長が同協会の諮問委員を務めているほか、シンクタンクの三菱UFJリサーチ&コンサルティングが最近、加盟することを決めた。プロジェクトの体制拡大を進める事務局のメンバーは10月以降、毎月来日しており、経済産業省ともコンタクトしている。

世界最大のレアアース供給国・需要国の中国では、中国希土類産業協会(ACREI)の Vice president である Chen Zhanheng 氏が諮問委員会に加わっている。また、大手国営企業を含むレアアース生産企業数社も加盟を検討中とのことで、中国からの加盟も今後増加が見込まれている。

GloREIA プロジェクトは、EU (European Union) の関連機関である EIT (European Institute of Innovation and Technology) Raw Materials の支援のもとでスタートした。しかし欧州の枠にとどまることなく、世界包括的な工業協会の実現に向けてパートナーを増やしており、これから影響力を高めていきそうだ。日本の企業や、関係機関はまだ様子見姿勢が見受けられるものの、EVシフトにともなう希土類磁石需要の拡大トレンドや、レアアースの安定供給に対するニーズの高まりから、今後、日本の企業や関係機関の同プロジェクトに対する関与は深まることが予想される。

レアアース産業界は、これまで世界包括的な協会組織がなく、2010-11年にレアアースの供給問題が生じた際、国と国、企業間、供給サイドと需要サイドの問題に対処する機能を欠いていた。それが問題を深刻化し、市場の混乱を長引かせた。GloREIAは、世界包括的な協会組織として、今後再び2010-11年を契機とするような問題(供給リスク、大きな価格変動、需要離れ、中国外諸国の競争力の喪失等)が生じないよう、調整機能を発揮していきたいとしている。また、レアアース生産にともなう環境インパクトの問題等にも方策を講じていきたい考えだ。さらにGloREIAは、中国における違法生産や、環境対策コストの問題にも中国とともに方策を講じられる可能性があるのでは、との見解も示している。

GloREIA プロジェクトは、レアアースの研究に多く取り組んでいることで知られるベルギーのルーヴェンカトリック大学が調整・まとめ役となり、オランダのライデン大学、デンマーク・グリーンランド地質調査所(GEUS)、ドイツのKOLEKTOR、カナダのNEOパフォーマンスマテリアルなどが Consortium partners として参画。External partners として豪ライナスやレインボウレアアースなどの企業が加盟している。諮問委員の中には、CMI(クリティカルマテリアルインスティテュート)のDeputy directorであり、コロラド鉱山大学教授でもあるRoderick Eggert氏も含まれる。

GloREIAが目指すものは、「レアアースの持続可能なバリューチェーンの確立」。そのために、①これ